

Title	ゆとりを持った支援（第7回ピア・スーパービジョン）
Author(s)	秀村, 智香
Citation	総合研究所 Newsletter, Vol.21-No.1, 2011.6 : 12-13
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=3073
Rights	



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

ゆとりを持った支援 秀村智香

1. なぜこの仕事に就いたのか

卒業後に女性や母子を対象とした緊急一時保護施設で支援員として勤務していました。1人の利用者さんと関わる時間が短く、地域で1人の人とじっくり関わりたいと思ったのがきっかけでした。

2. 仕事の悩みについて

予防プランナーとして、自己作成・委託を併せて80件程度を担当していますが、事務的な仕事が多く、利用者に関わる時間が少ないこと。他の職員にケースについての相談はできるが、事業所全体が「ケースの最終判断は担当が行う」という考え方なので、何かあった場合は公休日でも連絡が

来るので、オン・オフが上手に分けられないことが悩みでした。

援助職として働いているのに、「期限があるやらなければいけないこと」が優先になってしまい、ジレンマを感じながらも解決できない自分がいる。自分の支援方法に自信が無く、休みの日でも常に仕事が頭から離れないので、疲れがたまる。辛くても相談する相手が居ないので、1人で泣くことしかできない自分が嫌になり、さらに疲れがたまるという悪循環になっていました。

3. 悩みの解決に向けて

月に1度包括の職員で会議を行っていますが、事務的な検討や報告が多く、カンファレンスの機会がほとんど無いです。以前はプランナー同士でケースの状況等を話し合う機会を作っていましたが。いつの間にかうやむやになってしまいました。

情報共有についてはグループワークの中で事業所全体の考え方をすぐに変えるのは難しいけれど、身近なところから始めてみてはどうかとアドバイスをいただきました。

今までは自分の悩みやどう解決したら良いのかをなるべく考えないようにしていました。今回の発表を通じて、自分の仕事についてもう1度考えることができました。発表の機会をいただき、あ



JR北与野駅前の新都心ビジネス交流プラザにて第7回ピア・スーパービジョンが開催された。

ありがとうございました。

(ひでむら・ともか 地域包括支援センターに予防プランナーとして勤務、社会福祉士、2006年度聖学院大学人間福祉学科卒業)